



建学の精神

校名の出典である、中国の儒教の書『中庸』の一節「衣錦尚絅」と、ペトロの手紙Ⅰ(3章3節～4節)の言葉に示された人間のあり方を、建学の精神としています。

「錦を衣て、絅を尚う」とは、「錦の着物の上に質素な麻の打ち掛けをまとい、つつましく被う」という君子の道を説いた言葉で、謙虚・謙遜な人柄、生き方を教える言葉です。

新約聖書ペトロの手紙Ⅰ「あなたがたの装いは、編んだ髪や金の飾り、あるいは派手な衣服といった外面的なものであってはなりません。むしろそれは、柔和でしとやかな気立てという朽ちないもので飾られた、内面的な人柄であるべきです。このような装いこそ、神の御前でまことに価値があるのです」

尚綱学院の教育は、これらの言葉に導かれた建学の精神に基づき、内面を豊かに飾り、謙遜の心を持って他者と共に生き、社会に貢献する人間の育成を目的にスタートしました。その想いは今も受け継がれ、尚綱学院の教育の土台となっています。



尚綱学院 校章・ロゴマーク
左：厳しい寒さをしのぐ梅の花に建学の精神との共通性を見出し、梅の花の形にも似た「尚」の字の中に「綱」の字をあしらった校章は、1902年から現在まで受け継がれています。
右：SHOKEIのSをモチーフに、総合学院としての推進力や、学生・子供たちの成長や飛躍、心の教育による共生社会への貢献を表わしています。

学校法人 尚綱学院

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

TEL : 022-381-3333 FAX : 022-381-3335



創立

尚綱学院の創立者はラヴィニア・ミードです。

1880年(明治13)、アメリカ・バプテスト宣教同盟(ABMU)は、T・P・ポートを盛岡に派遣しました。N・ブラウン訳聖書を入手し、聖書の学びへの意欲を持ったハリストス正教会のメンバーたちからの再三の要請に応じてのことです。横浜居留地にいたポートは、その年に3回の東北伝道旅行を敢行し、プロテスタントのキリスト教を東北の地へ伝えた最初の宣教師となりました。この年、盛岡第一浸礼教会と仙台第一浸礼教会がポートによって設立されました。

1884年(明治17)には、E・H・ジョーンズが来仙。仙台に定住し宣教活動を開始しました。そして1886年(明治19)以降、若い独身の女性宣教師も、仙台に使命感を感じてやって来るようになります。女性宣教師たちは、自分たちの任務を十分に遂行するためには、女性や子供に直接働きかける日本人女性の協力が不可欠であることを痛感し、バイブル・ウーマンの養成に取り組みました。

1890年(明治23)にはバイブル・ウーマンを養成するとともに、自分たちの住居に日本人の少女数名を迎え入れ、寝食を共にしながらクリスチャンとしての生活と活動ができるように教育と訓練を開始しています。このようにして、小さな家塾ができました。

しかし翌年、二人の宣教師が仙台を離れたため、家塾の運営はL・ミード(在仙期間1890～1902年)一人の手に委ねられることになりました。それは大変困難を伴うものでした。1892年(明治25)8月、ミードは家塾を〈尚綱女学会〉と命名し、普通科と聖書科を持つ「学校」としてスタートさせました。尚綱女学会の運営に、同年11月にA・S・ブゼル(同1892～1919年)が加わり、ミードと二人三脚による活躍がここから始まるのです。尚綱学院はこの年をもって創立の年としています。



創立者 ラヴィニア・ミー(左)
初代校長 アンネ・S・ブゼル(右)

創立の背景と歴史

尚綱学院の前身である、尚綱女学会が生み出された背景には、仙台地区における伝道活動を推進するために日本人バイブル・ウーマンを養成する必要と、もう一つは遺児や不遇な状況に置かれた少女たちに対する宣教師たちのキリスト教的愛の実践がありました。これらが相まって「Christian Girls' Boarding School(寄宿学校)」が生み出されていきました。

バイブル・ウーマンというのは、宣教師たちの手足となって伝道の第一線で活躍する女性キリスト者のことで、外国人の存在自体が珍しかった当時の東北において、日本人女性による協力なくしては、伝道は不可能と考えられたことによります。T・P・ポートの盛岡派遣を要請したハリストス正教会のメンバー 大坂徳治の娘 マリヤは、バイブル・ウーマンの一人として尚綱女学会の二人目の卒業生となりましたが、将来の仙台地区の伝道・教育の担い手となるために、東京・駿台英和女学校に派遣されています。

創立者ミードは、1887年(明治20)宣教師としてインド・オンゴルに赴任しますが、チフスにかかり落命しそうになります。いったん帰国したミードは、健康回復後ミネアポリスの宣教師養成神学校で学び始めました。再び海外伝道への強い意欲を持つようになった彼女を、婦人バプテスト外国伝道協会は、冷涼な気候の仙台に派遣することにしました。ミードは着任以来、一貫して、女性の伝道者養成と指導を最大の使命として、バイブル・ウーマンの養成と家塾及び尚綱女学会の運営に尽力しました。

ところが1895年にミードは事故で上半身に大火傷を負い、回復後も大きな火傷の跡が残ってしまいました。

この事故を契機として、具体的な運営や活動に関してはブゼルが担当するようになります。1899年(明治32)の尚綱女学校設立の認可願には、学校創設者としてミードとブゼルが共に署名しましたが、ミードは1902年(明治35)に尚綱を去ることになります。

仙台を離れてからのミードは長府、下関、大阪で宣教師として働き、大阪ではバプテスト女子神学校の校長として女性伝道師の養成に力を入れます。また、社会活動にも積極的に献身し、〈基督教ミード社会館〉を大阪市淀川区に創設しています。1926年(昭和元)に帰国して1941年(昭和16)に召天しました。一方、ブゼルは尚綱女学校初代校長として20年間大きな働きを担うこととなります。1936年(昭和11)に仙台で召天。市内のキリスト教墓地に葬られたブゼルは、同窓生はじめ多くの尚綱関係者の記憶にいつまでも残ることになりました。

なお、2010年(平成22)名取キャンパスに「エラ・オー・パトリック・ホーム」が復元されました。これは1896年(明治29)に建設された当初最初の校舎(一部分)です。生涯のほとんどを病床で過ごしながらも、キリスト教伝道と女子教育への情熱を抱き続けたエラ・オー・パトリックの遺志を伝えるために命名されたものです。

尚綱学院では創立年を尚綱女学会が始まった1892年(明治25)、創立記念日を設立認可された11月24日(1899年〈明治32〉)としています。